

平成24年度看護研究交流会

2月16日(土)に看護研究交流会を開催いたしました。雪が降り大変寒い日にもかかわらず、学内外から多くの方にご参加いただき、無事終えることができました。ご参加いただきました皆さま、開催にあたり御協力いただきました皆さま、ありがとうございました。



午前は看護研究発表、午後は事業報告会としてフォーラムを行いました。司会は、中林佳代副看護部長に行っていただきました。

午前は、三木恒治病院長の挨拶の後、臨床看護師が日々忙しい勤務の合間をぬって取り組んだ研究の成果を発表しました。多くの部署が、看護教員の支援を受けながら研究に取り組みました。実践的なケアにつながる発表を聞き、看護の質の向上のために、臨床看護師が研究を行う必要性を改めて感じました。

午後は、吉川敏一学長の挨拶の後、事業報告会としてフォーラムを行いました。看護職が自分のキャリアについて考える機会となることを期待し、テーマを『看護師のキャリアを考える』としました。

まず、講演は、テーマを『看護師のキャリアとワークライフバランス』とし、南東北グループ人材開発部教育看護局長中島美津子先生より看護界の現状とワークライフバランスについてお話していただきました。日々、私たちが経験したことや感じていることを例をだしてわかりやすくお話していただき、大きくうなづいておられる参加者の姿がありました。プロとして自律すること、互いを認め合うこと、尊敬し合うこと、思いやることなど、自分の働き方を振り返る機会となりました。また、看護師としてだけでなく、自分らしく生きるために大切なことをたくさん教えていただきました。参加されたみなさんにとって、自分自身のワークとライフのバランスを考える機会になったのではないかと思います。



実践報告は、附属病院副院長兼看護部長である小城智圭子看護実践キャリア開発センター長より、現在の看護部のキャリアパスと「一人前看護師まで」「中堅看護師以降」のプログラムの概要と今後の展望について報告しました。

その後「語り合おう「看護職のキャリア」」をテーマに3年目の田邊安啓看護師(D4)、ジェネラリストの鈴木美智子看護師(B8)、子育て中の井上恭子看護師長(D4)の3名に発表をしていただきました。自分が歩んだ

道のりを振り返り、自分の家族や仕事への思いを語っていただきました。話を聞き、涙を流されている方もおられました。看護師として歩んできた過程には、支えてくれる家族や一緒に頑張る仲間、認めてくれる先輩や上司の存在があったことを改めて気づかされ、周りに感謝し、看護師として、これからも頑張っていこうと思えるシンポジウムとなりました。



今回の看護研究交流会を通し、看護師としての自分の道のりを振り返り、自分の「看護師としてのキャリア」を考えてもらうきっかけとなれば幸いです。自分にとってのワークとライフのバランスを考え、これからも看護職として皆さまとともに、歩き続けていきたいと思っております。